

金山町議会産業建設常任委員会管外視察報告

産業建設常任委員長 坂内 譲

産業建設常任委員会では、7月7日～9日までの日程で総務文教常任委員会合同で山梨県小菅村、北杜市等において以下のような管外視察を行いました。

1. JR 青梅線「沿線まるごとホテルプロジェクト」駅周辺環境整備について視察

「沿線まるごとホテルプロジェクト」は JR 東日本八王子支社・周辺自治体・地元企業が連携し、青梅線沿線の既存資源を最大限に有効活用し、地域全体を一つのホテルとして機能させるというコンセプトで売り出しています。青梅線も只見線と同じぐらいのローカル線であり、周辺の山に登る登山客の足としての利用が大半であり、ホテルプロジェクトが始まったことで、新たな観光客層の開拓にもなり、多くの体験メニューを用意し多様なニーズを持つ観光客を惹きつけることに成功し、特に地域の文化や暮らしに触れたいという層からの支持が多くなってきているようでした。

また、このプロジェクトが始まったことで、多くのマスコミがこの取り組みを新聞・雑誌・テレビ・撮影に紹介され、その経済効果は広告換算価値で言えば約4億円以上の効果があったようです。そして、何よりも地域コミュニティの再構築が図られ、地域住民同士の連携が強化され、観光客と地域住民の交流の場が増えたことによる地域の活気が戻ってきているようでした。

もちろん、放置されていたような空き家等を有効活用されることで、地域の景観も改善され、空き家問題にも寄与しています。このことは、持続可能な地域づくりにおいて非常に重要な活動になっています。

【まとめ】

沿線まるごとホテルプロジェクトの活動から見えるのは、只見線は青梅線に負けないぐらいのポテンシャルがあるにもかかわらず、訪れる観光客の方々が地域の文化や暮らしに触れられるような奥会津らしい企画や施設があまり無いことに気がつきました。青梅線沿線で出来たように、只見線沿線でも川口駅を中心に JR 東日本や沿線町村・地域住民を巻き込んで、川口駅周辺整備を実施し、移住者やUターンしてくる若者たちの働くための受け皿作りの一因にしていきたいと思いました。また、今年から金山町にUターンされた横山さんの力を借りる一番のプロジェクトになるように期待しています。

2. 山梨県北都留郡小菅村「小菅NIPPONIA大家・崖の家」を研修

多摩川の最上流部人口600人程度、森林率95%周りを山々に囲まれた、美しい自然と豊かな歴史文化を有している村です。そのような中で、少子高齢化の問題で、地域の産業を担う後継者不足等により村内の旅館や民宿などの宿泊施設は年々減少してきています。このままではジリ貧になってしまうと考え、専門的な経験や知識を必要とするホテルの開発および経営を民間企業に託す方法をとることになったようです。

村づくり会社・(株)源・(株)NOTE・(株)さとゆめ（道の駅こすげの運営）の3社で出資したEDGEを設立し、古民家ホテル「小菅NIPPONIA」の運営を行っているようです。

このプロジェクトが始まったことで、小菅村に多くの成果と影響が出ているよ

うです。

- ・単なる観光客としての一過性の訪問だけではなく、古民家での滞在を通じて地域の暮らしを体験することで、村に愛着を持ち継続的に関わる「関係人口」の創出に成功しているようです。

- ・放置され老朽化が進んでいた古民家が再生されることによって、地域の景観が維持され、歴史的建造物の価値が再認識されています。全国的な課題である空き家問題に対する有効な解決策の一つになると思います。

- ・改修された古民家での滞在は、村の伝統的な暮らしや文化に触れる貴重な機会の提供に繋がっています。これにより地域の文化が継承され、これに興味を持った多くの優秀な移住者による地域活性化が生まれ、地方創生の大きな一歩になるのではと期待しています。

【まとめ】

金山町も小菅村も山奥での地域活性化は本当に難しい課題だと思っています。ですが、ここはもう開き直って金山町にしかない様な何かを見つけて、小菅村が見つけれられたように画一的ではないような、その土地ならではの歴史や文化、自然を体験できるストーリー性のある観光施設は、これからの旅行者が求めるニーズに合っていると思います。ただの宿泊施設に泊まるより、地域固有の歴史、文化の象徴のような古民家に宿泊することで、他の地域との差別化を図られるのではないかと感じました。

それと、大きな施設とは異なり、小規模で地域に分散した施設は、よりきめ細やかなサービスが出来、地域との一体感を醸成しやすいという利点があります。SDGsの観点からも地域資源の有効活用、空き家問題解決、地域経済の循環、担い手不足解消等、地域のブランディング向上にもつながるのではないかと考えます。

3. 山梨県北都留郡小菅村「小菅村人ポイントカード」について

本ポイントカードは、村独自の通貨に近い機能を持つポイントシステムであり、地域内経済の活性化と村人の生活支援を目的として導入されました。村内の指定された店舗や施設で利用するだけではなく、村内活動への参加や貢献に応じてポイントが付与される仕組みです。村内での消費を促し、地域経済の循環を強化するとともに、村民の地域活動への参加意識を高めることを目指しているようです。

また、村民だけではなく1/2村人ポイントカード等も発行し、村への愛着に加え地域振興にも寄与出来るポイントが付与している。定期的に村に訪れてもらえるようなキッカケ作りで出しています。

また、村民の健康増進につながるように、健康診断の受診や清掃活動など、健康維持や地域貢献に繋がる行動にポイントが付与されることで、参加意欲が高まりポイント獲得を目的とした高齢者の外出が、運動不足解消や社会との接点維持に繋がっているようです。

【まとめ】

金山町でも、商工会や観光物産協会等多くの事業団体がある割には、横の繋がりで一緒に事業しませんか？などといって地域振興の活動をしていった例が少ないように思います。この小菅ポイントカードシステムを参考に、これからのDX時代のおいての最低限の施策ではないかと感じています。

この小菅村の取組を全て取り込むのではなく、金山町仕様にして行きなが

ら、地域経済の活性化、町民の健康増進、地域活動への参加促進、そしてコミュニティの強化に貢献出来るようなシステムとして構築できるのであれば、関係機関と調整を取りながら、導入を進めるのもいいのではと感じました。